

不動産学の魅力

明海大学 不動産学部

第83回



中台 一之介
不動産学部
3年

これまで不動産学を学んできた中、こか遠くで生じている話などではなく、私が最も興味・関心を持ったのく、とても身近なものだと感じている。不動産の空き家問題である。近頃、街を散歩している際に、住宅街にもかかわらず人が住んでおらず、草木に覆われている家や手入れがされていないボロボロの外見の家を見る機会が増えているように思われる。

意外に身近な空き家問題

制度活用や連携で利活用の後押しを

が必要であると思う。
が自分事として深く考えていく

のだろうか。その要因は多岐にわたり、単純なものではないが、私自身は、相続時の問題が大きいと考えている。

そもそも相続は誰でも経験することになるという意味でも、身近な問題である。例えば、地方に居住する親から都市部に住む人が実家を相続した場合、実家が遠く離れていれば、定期的に管理をするのが難しく、更には

年の調査によれば、わが国の空き家の総数は約900万戸に上り、空き家率は13・8%となっているなど、総数・空き家率とも経年的に増加傾向にある(『2023年住宅・土地統計調査』。空き家の問題は、単なる個別の問題を超えて、広く社会的な問題となっている。

修繕などがなされないまま、放置されてしまうこともあるだろう。このように積極的に使う予定もなく時間が経過してしまつと、更に空き家の状態・環境が悪化してしまつという負のループに陥ってしまつかもしれない。

【教員コメント】

空き家問題に関心を持っている学生は多い。それは、彼ら／彼女らにとって、そして私たちにとっても、机上の遠くにある問題ではなく、身近にある社会問題だと感じているからだと思われる。

では、なぜ空き家が増大している

こつした空き家の状況を改善するために、まずは行政が、空家対策

(兼重賢太郎)

このように、空き家の問題は、ど

な問題となっている。

たためには、まずは行政が、空家対策